

沖縄県教育庁義務教育課 総評

主任指導主事 玉村かおり氏

今回の教員成果報告会は、本事業の参加学校(北部 17 校、中南部 29 校)が集まり、事業の成果を共有して自身の学校に持ち帰るという大変素晴らしい機会、有意義な時間だと感じた。

はじめに、事業の概要についてカルティベイトの開代表から、実施報告があり、アンケートの結果と子ども・保護者の声から、量・質ともに充実したデータが示された。各離島での体験交流が子ども達を成長させ、保護者にもそれが感じられたことが伝わってきた。

ワークショップ(本事業を活用した各校でのねらい・取り組み・成果の事例共有)において、先生方が各校の派遣前・派遣中・派遣後で丁寧に指導していたポイントやその成果について指導の視点をしっかりと持ちながら共有できたことは大変いい成果だったと思う。ワークショップで使用した事業取り組みシート(各校が本会議に向けて事前に作成したもの)を見たところ、先生方が継続的な学習指導に取り組んだこと、教科横断的な視点で取り組んだことが分かり、まさに次期学習指導要領のカリキュラムマネジメントを先取りしていると感じた。

ワークショップでは《協調性・協力》《コミュニケーション能力向上》《感謝の気持ち》《自然への関心・親しみ》《沖縄の良さ再発見》といったキーワードが挙がっており、児童がこの事業における体験を通して、学校で仲間と一緒に学び、成長していることが強く感じられた。参加校の児童はとても幸せだと思う。明日も行きたくなる学校、明日が待たれる学校にきっとなっていると実感した。

取り組み事例紹介では南原小学校と本部小学校の教員 2 名が具体的な事例をあげながら指導のポイントを丁寧に紹介してくれた。

南原小学校では充実した教育課程があり、児童が自立できる指導がされている。沖縄は離島県であり、離島の小学校では「自立」が大きなキーワードになっている。高校がない離島では「15 の島立ち」というものがあり、子ども達は高校進学のために親元を離れなければならない。そのような子ども達が中途退学や中途退職しないためにも、学校は児童が「自立」できるようきちんと計画立てた指導を行っていかなければならない。この点で南原小学校の指導計画はたいへん練られたものだと感じた。

本部小学校は国指定の道徳教育の研究校であり、先だつての研究発表や公開授業も素晴らしいものであった。同時に本事業にもエネルギーに取り組んでおり、特に児童の自己変容の実感を成長と捉え、先生方が意識を高くもって、多方向にアンテナを張りながら、このようなチャンスを手早く繋げて児童を育て、確かな成長の保証を感じた。

本会議に参加した先生方は「来年はこういう取り組みをしてみよう」という非常に大きな示唆を得られたかと思う。会議冒頭のあいさつで「沖縄県の児童が離島に関する認識を深め、共に発展していく社会を形成することを目指す」という言葉があった。次期学習指導要領のなかで、《予測困難な未来》という言葉を知ると思う。予測は困難だが未来は子ども達が創るというものであり、その未来を作る子ども達に、どのような力をつけるのかを視野に入れながら、これからの学習指導に活かしてもらえればと思う。

今後とも本事業の趣旨をふまえ、充実した離島体験事業に取り組んでほしい。